早稲田商学第 403 号
2 0 0 5 年 3 月

消　息

石塚博司先生，坂本圭右先生，立脇和夫先生および石井和彦先生をお送りするにあたって

商学部は創設100周年を迎えた記念すべき2004年度を終えるに当たり，４名の先生方とお別れをすることになりました。いずれも学部の発展に多大な貢献をされた方々ですので，ご退職によって空いた穴は容易に埋めがたく，あらためてかけがえのなさを痛感いたします。幸いにして，４名の先生ともご健康に恵まれ，今後ともご活躍くださることはまことに喜ばしいかぎりです。商学部を代表して，先生方に感謝の気持をお伝えするとともに，これからも学部の外から変わらぬご指導をお願い申し上げる次第です。

消息に特別な記事が掲載されることをご辞退された石井和彦先生を除く他の３先生については，それぞれに親しい先生より惜別の言葉をいただくことになっており，その中で各先生の歩まれたご足跡が紹介されますので，内容の重複を少なくするよう，ここでは主に商学部への寄与や研究上のご貢献を中心にご紹介をさせていただきたいと思います。

すでに昨年の６月に退職をされ名誉教授になられた石塚博司先生は，1958年に商学部をご卒業後，引き続き大学院で青木茂男先生のご指導を受けられ管理会計を学ばれました。先生がお若い頃から秀才の誉れ高かったことは，博士課程の段階で小野梓記念学術賞を受賞されたことにも現れております。管理会計に数理的手法を取り入れた先駆者の一人である石塚先生のご関心は，その後会計情報分野にも拡張され『意思決定の財務情報分析』（国元書房）や『会計情報と株価』（同文館）などの研究成果を世に送り出しておられます。

商学部助手を経て，専任講師，助教授，教授へと進まれた先生は，管理会計を中心とした会計関連科目のご講義を続けられながら，研究上のみならず学内行政においても大

きな足跡を印されました。教務担当教務副主任を皮切りに，教務担当教務主任，産業経営研究所長，商学部長として商学部の運営に当たられた後，1994年から８年間奥島孝康総長の下で常任理事の大役を勤められました。学部長・理事のご在任中，商学部の中から正体不明団体の影響を一掃する上で先生が常に後ろ盾となって時の教務や教職員を支えてこられたことは特筆に値します。

さらに，現在施行されている商学部の教育システムは，石塚学部長時代に先生のご指導の下に構想されました。わたしはその間の事情を昨秋刊行された『商学部100年史』で回顧する機会に恵まれましたが，教育システム検討委員会が１年半にわたる白熱した議論を纏め上げることができたのは，ひとえに先生の指導力の賜物です。石塚先生は，ご退職後，道路公団の監事として現在も第一線でご活躍されています。

商学部の教員や学生が，今日，平安の下に研究･教育あるいは勉学に専念できる上で，坂本圭右先生の果たされた役割は大変に大きなものです。先生は鳥羽欽一郎学部長の下で教務担当教務副主任を勤められた後，２度にわたり学生担当教務主任として朝岡良平学部長を支えられました。とくに最初の教務主任時代には，あの忌まわしい入試漏洩と成績改竄問題への対策と公明正大な商学部の再生に向けて，先生が文字通り寝食を忘れて没頭してくださったことをけっして忘れることはできません。

坂本先生は，1959年に法学部をご卒業後，引き続き大学院法学研究科に進学され外岡茂十郎先生の演習で民法のとくに家族法を専攻なさいました。大学院を修了後，中京大学法学部の専任講師･助教授を経て，1974年に商学部に移られた先生は，助教授さらには教授として今日まで30年余りの間，商学部の民法講義を担ってこられました。『民法財産法』（成文堂，1976年）などの多くの研究成果の中にあって，1990年に刊行されたご著書『夫婦の財産的独立と平等』（成文堂）は，家族法とくに夫婦財産法を長年にわたり究めてこられた先生の主著にあたる作品です。

温厚な中にも厳しさを秘められた先生のご講義は，お人柄を反映した真摯な内容によって学問の厳しさと面白さを伝え，多くの学生を惹きつけるものでした。同時に，外柔内剛という言葉が相応しい坂本先生の存在感は，商学部の多くの先生方の信頼を得て，商学部の危機に存分に発揮されました。その先生をお送りするにあたり，あらためて長年にわたる商学部へのご貢献に感謝の念を覚えること切なるものがあります。

1992年に商学部にお迎えした立脇和夫先生のご在職期間は12年とそれほど長かったわけではありませんが，多数のご著書の刊行を通じて研究と教育の両面で早稲田の金融論を代表される活躍をなさいました。ご担当されたファイナンス論や金融論はいうまでもなく，とくに国際通貨制度論，国際金融市場論は国際金融論をご専門とされた先生の独壇場といえるでしょう。

1959年に神戸大学経営学部を卒業された立脇先生は，学生時代からの日本銀行勤務を続ける傍ら，フルブライト奨学金によりシアトルのワシントン大学大学院にご留学されました。その後，米国の銀行勤務を経て，1983年から教職に就かれ長崎大学・静岡県立大学の教授を歴任される中で，著書『在日外国銀行史』（日本経済評論社，1987年）により1989年には母校の神戸大学より経済学博士の学位を取得されました。先生ご自身も経験された在日銀行の歴史にかんするご研究は，中公新書として出版された『明治政府と英国東洋銀行』（1992年）や2002年に刊行された研究書『在日銀行百年史』(日本経済評論社)に引き継がれます。さらに，中央銀行でのご経験が反映された『改正日銀法』（東洋経済新報社，1997年）や『欧州中央銀行の金融政策』（共訳，東洋経済新報社，2002年）など多数のご著書を商学部時代に刊行され，金融学会の理事としても学界に大きな貢献をされています。

立脇先生は『ケインズ全集』第27巻「戦後世界の形成：雇用と商品」（1996年，東洋経済新報社）のご翻訳を担当されましたが，共訳者であったわたしの学界の友人は先生の語学力の卓抜さに舌を巻いておりました。理論だけでは解明できない複雑な金融現象を，制度・歴史･政策などの幅広い領域にわたって考察された碩学の今後のさらなるご活躍をお祈りいたします。

70歳定年より９年も早く選択定年を選ばれて商学部を去られる石井和彦先生は，文字通り早稲田の申し子のような方です。先生は早稲田大学高等学院では硬式野球部に所属し，３年間市川から上石神井までの遠距離通学を経験された後，商学部に進学され原田俊夫先生の下でマーケティングを学ばれました。卒業と同時に大学院商学研究科に進まれた石井先生は，1971年には商学部助手に採用され専任講師，助教授を経て，1983年に教授に昇任されました。また，1979年から２年間の在外研究期間をドイツのエアランゲン＝ニュールンベルク大学の経営経済学研究所で客員教授として過ごしておられます。

マーケティングから次第に市場の進化と諸文明との歴史的・構造的関連に関心を深められた先生は，自らが構想し創設された総合・学際コースにおける講義科目「市場と文明の進化誌」の進行とご研究の深化とが一体となった思索を重ね，次々と成果を発表されました。1975年から81年にかけて『産業経営』と『早稲田商学』誌上に６回にわたって掲載された「市場と文明」シリーズを嚆矢として，ご翻訳書『市場の書―マーケットの経済・文化史―』(同文館出版，1988年)，「Ⅰ消費社会の形成―市場と文明の進化史」(『マーケティングの今日的問題点とそれへの考え方と対応策』産研シリーズ23，1992年)などが代表的な成果といえるでしょう。

そうして，2000年から昨年９月までの14回，４年間をかけて『早稲田商学』に１回の休みもなく連載された論文「市場と文明の進化誌」は，全体で1,075ページとなった大作です。個人的なことを書きご寛恕願わねばなりませんが，抜刷りの刊行ごとに著者より恵与される機会を得てきたわたしは，全14冊1,075ページを読み通す幸運に浴しました。「市場と文明の進化誌」が行きついた「ゆうげ文明と共存市場」について語られる14回目の最終パラグラフの文章は，文明史観と市場文明の未来像をめぐる長考を終えられた石井先生の柔道でいう残心の姿勢を象徴しているように思えます。かつてお聞きしたご退職後の話を思い起こしつつ，先生の息災を願ってやみません。

冒頭でも申し上げたように，石井先生はこの消息に記事が掲載されることをご辞退なさっておられましたが，特別にお許しを得てここに先生をお送りする言葉を書き加えさせていただくことができ幸せに存じます。

最後に，あらためて４先生のご健康とご多幸を祈念し，重ねて感謝の気持を申し添えつつ送別の言葉といたします。

早稲田商学同攻会会長
大　森　郁　夫　謹記